

(4) 水道施設・管路の耐震化と経年管の状況、鉛製給水管残存状況

令和元年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は32.6%、配水池の耐震化率は58.6%、基幹管路の耐震適合率は40.9%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和2年度末の浄水施設の耐震化率は22.6%、配水池の耐震化率は49.0%、基幹管路の耐震適合率は48.4%、法定耐用年数40年を超えた老朽化管路率は34.0%となっている（P.48～50 参照）。

令和元年度末における全国の耐震管布設状況と法定耐用年数（40年）超の管延長は、次頁のとおりで、大阪府が残存率で全国ワーストとなっている（表一八）。

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は全国ワーストではないものの、残存件数は全国ワーストとなっている（表一九）。

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

表一八 水道管路の耐震化状況と経年管の状況（全国比較） 【令和元年度水道統計より】

耐震管の延長・割合（配水支管含む）					法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合						
管延長（km）			布設率（%）		管延長（km）			残存率（%）			
①	東京都	12,966.8	①	東京都	44.2	①	愛知県	8,962.2	①	大阪府	32.8
②	愛知県	8,987.5	②	富山県	29.8	②	大阪府	8,102.3	②	神奈川県	26.5
③	埼玉県	7,371.3	③	神奈川県	26.3	③	千葉県	7,518.7	③	京都府	26.2
④	神奈川県	6,876.0	④	青森県	25.8	④	北海道	7,223.3	④	香川県	26.1
⑤	大阪府	5,835.8	⑤	埼玉県	25.1	⑤	神奈川県	6,938.9	⑤	千葉県	25.8
			⑥	大阪府	23.6						

表一九 鉛製給水管残存状況（全国比較） 【令和元年度水道統計より】

残存延長（km）				残存件数（件）							
全体の残存状況（km）		公道部の残存状況（km）		全体の残存状況（件）		公道部の残存状況（件）					
①	兵庫県	463.6	①	石川県	284.7	①	大阪府	257,955	①	大阪府	95,690
②	石川県	363.2	②	兵庫県	186.9	②	兵庫県	215,777	②	兵庫県	55,011
③	宮城県	340.6	③	大阪府	141.2	③	香川県	128,052	③	広島県	32,207
④	香川県	318.1	④	静岡県	119.2	④	神奈川県	122,338	④	宮崎県	29,866
⑤	大阪府	307.1	⑤	神奈川県	106.1	⑤	福岡県	100,205	⑤	静岡県	27,910